

令和3年11月8日

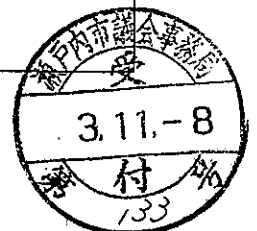
瀬戸内市議会議長

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和3年11月6日
研修会名	KOTOMO 基金第1回活動報告会 「困難を抱える子どもの支援」に関するシンポジウム
開催場所	山陽新聞社さん太ホール（岡山市北区柳町2-1-1）
研修内容	第1部 クロストーク 村田早耶香 氏 （認定NPO法人かものはしプロジェクト共同創業者） 活動報告や現在の課題を発言 ・カンボジアやインドで活動を開始 ・一つの団体が大きくなっても、課題解決にはつながりにくいと感じている ・被害にあった人が直接行政支援につながりにくい現状 石原達也 氏 （岡山NPOセンター代表理事） KOTOMO 基金の概要や活動報告 ・子どもたちのことを誰一人取り残さない方針 ・こども基金の支援は、訪問支援、緊急避難支援、早期発見支援の活動に対して行っている ・事前登録制の仕組み 第2部 KOTOMO 基金活用団体活動報告 中山 遼 氏（NPO法人あかね 代表理事） ・20年継続している



- ・不登校の子どもへの訪問支援を実施
- ・岡山の不登校の現状報告
- ・子どもの居場所作りを行政と連携して実施
- ・不登校の支援の実例報告

村本和孝 氏

(NPO 法人志塾フリースクール岡山 理事長)

- ・卒業生が支援者となっている状況報告
- ・支援形態の報告 (訪問型支援・屋内屋外活動支援・体験活動支援を実施)
- ・訪問型支援で大切にしていること (男女ペアで1組・最低月2回訪問・土日深夜早朝対応など)
- ・関連団体と連携の実施

紀 奈那 氏

(一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ 代表理事)

- ・居場所作り支援・地域交流活動の現状報告
- ・公的機関につながりにくい子どもたちの現状報告

井上正貴 氏 (ハルハウス 代表)

- ・子ども食堂の実施報告
- ・ヤングケアラーへの支援など状況報告
- ・行政への連絡や連携して支援の実施報告

第3部 シンポジウム

「子どもたちの孤立や困難を解消するために力を合わせて何ができるか」

KOTOMO 基金協賛企業

オカネツ工業株式会社 代表 和田俊博 氏

- ・会社の概要説明
- ・SDGS「貧困をなくす社会」を目指す思いで会社経営
- ・従業員への働きかけで大切にしていること
- ・継続した支援ができるようにする取り組み

KOTOMO 基金ネットワーク参加団体

NPO 法人岡山ビューティサミット 代表 柚木幸子氏

- ・エステなど一人親に対する就労支援など状況報告
- ・24時間悩み相談の状況報告
- ・シェルター機能の実施

NPO 子どもシェルターモモ 事務局長 西井 葉子氏

- ・虐待など24時間、365日稼働の状況報告
- ・行政から委託で実施報告 (緊急避難シェルター、自立

	<p>援助ホーム、アフターケア事業など) NPO 法人ポケットサポート 代表 三好祐也 氏 ・小児がんなど長期入院している子どもへの支援など状況報告 ・病気によって起こるサポートの実施</p>
<p>所感</p>	<p>それぞれの団体からの活動報告から子どもたちを取り巻く社会の深刻さが分かった。被害者となる子どもの周囲の大人（保護者）や兄弟姉妹の問題も解決していかなければ、根本的な解決にはならない。行政だけではなく、一つ一つの団体が連携することで支援につながることをみえてきた。まだまだ十分でない体制であり、「24 時間の相談体制」「当事者ではなくその兄弟への支援体制」など取り組まなければいけないこと、問題解決をしなければいけないことはまだまだある。今活動している支援団体の隙間を埋めていくことも必要だと感じた。今回の岡山での取り組みの報告で横の連携が比較的力量を発揮していることに未来への光が見えた。</p> <p>わが市では、「のぞみ」「青少年育成センター」などの活動で 15 歳までの支援は実施されているが、それ以降の支援が不足している。また、岡山市を中心に活動している NPO 団体が市内にはないので、岡山県内全域を対象としている子どもの支援をしている団体を広く知らせることも必要だと感じた。また、わが市の規模では行政が主導して動くことも、実態を把握することも必要である。誰一人取りこぼさない社会を目指してできることを一つ一つ実施していく必要があると感じた。</p>